様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：３２６６５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ１２０５７

研究課題名（和文）歯科衛生士の生涯を通じた系統的保健指導と行動変容のコンピテンシー基盤教育法の開発

研究課題名（英文）Development of a Competency-Based Pedagogy for Systematic Health Instruction and Behavior Change throughout the Lifespan of Dental Hygienists.

研究代表者
岡本　康裕（OKAMOTO, Yasuhiro）

日本大学・松戸歯学部・講師

研究者番号：５０４３４０９８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：患者の行動変容に関わる教育プログラム開発として、歯科衛生士として修得すべきコンピテンシー基盤型教育プログラムの構築を進めるために、各教育機関における教育の実施状況の分析を行った。その結果、医療行動科学においては、歯科衛生士教育のコアカリキュラムに含まれるものの、教育の実施状況はさまざまであった。
また、臨床実習前後の学生に臨床実習において、患者さんとの信頼関係の構築の向上を目的として、「オープンウィンドウ64」を用いた分析を行った。その結果、行動科学に大きく関与するコミュニケーション力において知識、認識の深まりが認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
現在、医療行動科学に関わる教育は歯科衛生士教育のコアカリキュラムに含まれているものの、歯科衛生士教育では、教育期間においても3年生、4年生があり教育期間によりさまざまな状況である。
患者との直接的な関わりが発生する臨床実習における、学生の行動科学に関する成長の変化を評価することは、今後の教育システムの構築に非常に重要である。また、学生から生涯教育へのシームレスな教育を構築するために重要である。さらに、今後の学生教育に対して、患者の積極的な教育参加の理解を得るためにも必要であると考えられ意義があると考えている。

研究成果の概要（英文）：In order to develop educational programs related to behavioral change in patients, we analyzed the status of education at each educational institution in order to promote the construction of competency-based educational programs that dental hygienists should master. As a result, in medical behavioral sciences, although included in the core curriculum of dental hygiene education, educational delivery varied.
An analysis using the "Open Window 64" was conducted with the aim of improving the development of trusting relationships with patients in clinical practice for students before and after clinical practice. The results showed a deepening of knowledge and awareness in communication skills, which is a major part of behavioral science.

研究分野：医療行動科学

キーワード：コンピテンシー　行動変容　教育プログラム　教育効果

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

現在、ケア重視の歯科医療にパラダイムシフトが求められており、口腔保健管理のプロフェッショナルである歯科衛生士においても健康の維持・増進には患者が自ら健康問題をマネージメントできる行動変容を促す効果的な保健指導のスキルの教育と評価が必要である。また卒前の歯科衛生士養成機関の教育形態は多様であり、その後の卒後および生涯教育の順次的・系統的なコンピテンシー基盤型教育を目指した保健指導の教育プログラムおよび標準化はまだ確立していない。平成 27 年に歯科衛生士モデルコアカリキュラムの改定により、臨床能力に関する教育がさらに充実が図られた。しかし歯科衛生士としてのコンピテンス(専門職の業務を行う能力としての広範な知識、技能および態度)をひとつのレベルの能力とするのではなく、卒前と卒後歯学教育の順次性を踏まえた学修システムとその評価を策定しなければならない。また保健指導は一方通行ではなく、患者と共に考え、価値観を押しつけずに、内的動機を引き出す保健指導のスキルの修得により、患者の行動変容を促進させ、より良い患者-医療者関係を構築できる。

２．研究の目的

研究は多様な歯科衛生士臨床教育の実態調査・解析を行い、卒前と卒後教育および生涯教育プログラムでの各段階でのコンピテンシー基盤型教育による地域基盤型の系統的保健指導の教育プログラムの開発と患者の行動変容を促す効果に関する検討を目的とする。

また国民が求める共感的・全人的医療を展開するには、単に歯科医療技術だけでなく患者行動(人間行動)そのものを学修しなければならない。そこで患者の行動変容に関わる教育プログラム開発として、歯科衛生士として修得すべきコンピテンシー基盤型教育プログラムの構築を進めるにあたり、臨床実習前後の学生に臨床実習におけるコンピテンシーを認識させるために、患者さんとの信頼関係の構築の向上を目的とした目標について、目標達成支援メソッド「オープンウィンドウ 64」を用いて分析を行った。

３．研究の方法

（１）行動科学に関する教育の現状調査

教育機関の評価等で実施されている行動科学の教育内容について把握する必要がある。関東地区における歯科衛生士教育機関のカリキュラム・シラバスを収集し、行動科学に関する教育ポリシー、教育科目の設置状況、カリキュラム内の教育内容の状況について調査した。

調査結果は関東（東京・神奈川・千葉・埼玉）の 33 校を対象に行い、内容が不明な 4 校については除外した。項目はカリキュラムポリシー・科目・行動科学系の内容を含んでいたキーワードについて分析を行った。

（２）衛専校学生の患者との関わりに関する意識調査

衛専校学生 1 年生（38 名)、2 年生（49 名)、3 年生（35 名）において「患者から信頼される歯科衛生士になる」という目標に対して、目標達成メソッドであるオープンウィンドウ 64（OW64）の作成を授業内に各学年で行わせた。オープンウィンドウの項目内容、頻度について各学年の違いについて分析を行った。テキストマイニングは、WordMiner® 1.5（日本電子計算®、東京）でコレスポンデンス分析（対応分析）を行った。さらに自然言語処理の構成要素（単語）の出現頻度の有意性テストを行い、学年ごとの特徴的な項目について探索した。

（３）臨床実習前後の衛専校学生の患者との関わりに関する意識調査

臨床実習前後の衛専校学生において「患者から信頼される歯科衛生士になる」という目標に対

して、目標達成メソッドであるオープンウィンドウ 64（OW64）の作成を授業内行わせた。オープンウィンドウの項目内容について臨床実習前後の違いについて分析を行った。

４．研究成果

（１）行動科学に関する教育の現状調査

現在、医学教育においては行動科学を学ぶために学問間の相互作用を重視し、基礎－臨床－予防医学の統合したカリキュラムが求められており学生から生涯教育へシームレスな教育を行い、行動科学・社会学をよりよい医療人の育成に生かしていくことが望まれている[1)]。

しかし、歯科衛生士教育は教育期間も 3 年、4 年と異なる環境にあることから、関東地区における歯科衛生士教育機関のカリキュラム・シラバスを収集し、行動科学関連の教育ポリシー、教育科目の設置状況、カリキュラム内の教育内容の状況について調査したところ、各教育機関により様々な形態であり時間数についても大きな差がある事が明らかになった。教育内容の提示状況は下記の（表 1）にまとめ示す。

科目として集中的な体制が組まれている教育期間がある一方で、教育ポリシーにのみ提示されている事例や、科目としては独立しておらず多くの科目内において分散して教育が行われている教育機関が認められた。また、科目名の表記も様々であり明確な教育実態の詳細の把握は困難であった。時間数も含めた詳細な調査のために、教育期間個々への詳細なアンケート調査の実施の必要があると考えられる。

行動科学系の教育においては、歯科衛生士教育のコアカリキュラム内の基礎分野・専門分野それぞれにコミュニケーション、心理、行動、人間関係の到達目標の設定がある。

保健指導の現場では歯科衛生士としてのコンピテンスは、一方通行ではなく、患者と共に考え、価値観を押しつけずに、内的動機を引き出す保健指導のスキルが求められる。こういったスキルの醸成には医療科学系の教育が重要である。しかし、各教育機関での教育実施状況はさまざまであり、今後に表記の統一や教育内容の確立の必要があると考えられた。

表 1　医療行動科学に関わる　カリキュラムポリシー・科目・キーワード

	カリキュラムポリシー	科目 1	科目 2	キーワード 1	キーワード 2	キーワード 3	キーワード 4
1		医療倫理	コミュニケーション論				
2		医療倫理	コミュニケーション論				
3		医療心理学	職業倫理				
4	コミュニケーション能力						
5				接遇・マナー	自己分析		
6		心理学		接遇・マナー			
7		医療倫理学		医療接遇			
8		コミュニケーション論		概論（コミュニケーション）			
9		コミュニケーション論					
10		コミュニケーション論		歯科衛生士概論			
11	コミュニケーション能力	マナーコミュニケション論		マナー	心理学		
12				歯科衛生士概論	医療倫理	医療心理学	
13		医療心理学	職業倫理				
14	人間関係とコミュニケーション	認知行動学	医療心理学				
15		コミュニケーション技法			医療倫理		
16					健康社会学	コミュニケーション	ホスピタリティ
17		カウンセリング学	コミュニケーションスキルアップ検定		コミュニケーション	対話スキル	自己表現
18		コミュニケーション論Ⅰ	コミュニケーション論Ⅱ	接遇・マナー			
19		コミュニケーション能力開発Ⅰ	コミュニケーション能力開発Ⅱ				
20		コミュニケーション論			キャリアデザイン	コミュニケーション	自己分析
21		コミュニケーション論	医療倫理学				
22		コミュニケーション論	カウンセリング論				
23		コミュニケーション能力Ⅰ～Ⅳ					
24		医療コミュニケーション学					
25		医療コミュニケーション学			認知行動学		
26		生活文化論			コミュニケーション	自我と他者	自己表現
27		医療人間学ⅠⅡ					
28		コミュニティワーク			実践と応用	コミュニケーション	
計	3校	24校	10校				

（２）衛専校学生の患者との関わりに関する意識調査

衛専校学生 1 年生～3 年生において「患者から信頼される歯科衛生士になる」という目標に対して、目標達成メソッドであるオープンウィンドウ 64（OW64）の作成させた結果、OW64 の

基礎思考の、頻度 6 以上の 32 種の構成項目が得られ、「技術」「コミュニケーション力」「知識」が各学年で高頻度にみられた。（表 2）

表 2 Open Window64の上位項目

	項 目	行 和	1年生（n=38）	2年生（n=49）	3年生（n=35）
	列 和	814	261	329	224
1	技術	104	30	43	31
2	コミュニケーション力	101	33	41	27
3	知識	95	31	41	23
4	健康	70	27	25	18
5	人間性	61	24	23	14
6	メンタル	59	18	31	10
7	身だしなみ	43	14	15	14
8	気配り	25	6	9	10
9	清潔感	25	12	6	7
10	態度	25	5	11	9
11	自身	21	4	10	7
12	人間関係	18	3	11	4
13	責任感	17	5	6	6
14	生活習慣	15	5	6	4
15	共感	12	3	6	3
16	向上心	10	4	3	3
17	行動力	9	6	2	1
18	自己管理	9	3	4	2
19	説明力	9	3	3	3
20	経験	8	0	6	2
21	笑顔	8	2	4	2
22	強調製	7	4	2	1
23	傾聴	7	0	2	5
24	信頼感	7	3	2	2
25	積極性	7	2	4	1
26	プライベート	6	1	1	4
27	ポジティブ思考	6	3	2	1
28	患者中心	6	2	1	3
29	言葉使い	6	3	1	2
30	体力	6	4	1	1
31	雰囲気	6	0	4	2
32	優しさ	6	1	3	2

さらに頻度 6 以上の 32 種、構成要素についてテキストマイニングを行った結果、1 年次生では「行動力」、2 年次生では「メンタル」、3 年次生では「学修態度」「傾聴」「丁寧」の頻度が有意に高かった。また、1 年次生では「経験」、3 年次生では「メンタル」の頻度が有意に低かった。（表 3）

表 3 Open Window64の上位項目

学 年	構成要素（項目）	検定値	有意確率	カテゴリー内構成要素数構成比(%)	構成要素数構成比(%)	カテゴリー内構成要素数	構成要素数
1年次	上位 1	1.857	0.032*	2.10	0.99	6	9
	上位 2	1.551	0.060	4.20	2.76	12	25
	下位 1	-1.669	0.048*	0.00	0.88	0	8
2年次	上位 1	1.824	0.034*	8.47	6.50	31	59
	上位 2	1.633	0.051	1.64	0.88	6	8
	上位 3	1.559	0.060	3.01	1.98	11	18
	下位 2	-1.506	0.066	1.64	2.76	6	25
3年次	上位 1	2.504	0.006*	1.57	0.44	4	4
	上位 2	2.029	0.021*	1.96	0.77	5	7
	上位 3	2.013	0.022*	1.18	0.33	3	3
	上位 4	1.59	0.056	1.57	0.66	4	6
	下位 1	-1.881	0.030*	3.92	6.50	10	59

*：$p<0.05$ 構成要素の頻度による有意性テスト

1 年次は初学時であり歯科教育を受ける前であることが頻度の低い要因であると考えられる。また、3 年次においては臨床実習の経験により実習前の 2 年次に比べて、実経験による患者に対する意識の変化が表れていると考えられる。

（3）臨床実習前後の衛専校学生の患者との関わりに関する意識調査

衛専校学生 2 年生（49 名）に対して臨床実習前後において「患者から信頼される歯科衛生士になる」という目標に対して、目標達成メソッドであるオープンウィンドウ 64（OW64）の作成を授業内行わせた。

前後の記載内容の違いについて基礎思考構成項目の頻度が高かった 7 項目を対象に、前後の構成項目の変更率の分析を行ったところ、座学・実習から臨床実習への変化で要求が強い「技術」「知識」「コミュニケーション力」において他の項目に比べ変更率が高い傾向がみられた。

表 4 Open Window64の変更項目率

	構成項目	構成項目数	対象項目総数	対象項目の変更数	項目内の変更率
1	技術	43	344	106	30.8
2	知識	41	328	81	24.7
3	コミュニケーション力	41	328	74	22.6
4	メンタル	34	272	42	15.4
5	人間性	23	184	23	12.5
6	健康	25	200	28	14.0
7	身だしなみ	15	120	19	15.8

その中で行動科学に関する教育の現状調査に関わる「コミュニケーション力」について、その内容について分析を進めたところ、記載文字数が 54.2%多くなっていた。記載内容変更の詳細な内容は、臨床実習後には項目がより具体的な表現へと変更し、コミュニケーションにおける専門用語の使用が多くなっていた。これは、患者と実際にコミュニケーションを行ったことによる気づきにより変化が起こったものと考えられる。さらに専門用語の使用の増加については、実地において生じた問題への対応として座学にて学んだ内容についての再確認が行われているものと考えられる。この結果を踏まえると、コミュニケーションにおいてはリスクの低さからも基礎実習への患者の参加を促すためにも、教育効果の評価に関する分析が必要であり研究結果の積み上げが重要であると考える。

＜引用文献＞

1）網谷真理恵：医学教育における行動科学・社会科学等の概念整理　2. 行動科学の概念整理, 医学教育, 52(2)：128〜134, 2021

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　9件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　9件）

１．著者名 大沢聖子，多田充裕，内田貴之，青木伸一郎，岡本康裕，遠藤弘康，梶本真澄，桃原　直，岩橋　諒，吉野亜州香，伊藤孝訓	４．巻 47(3)
２．論文標題 歯科学生自身による患者付き添い実習の自己評価に影響を及ぼす要因－ソーシャルスキル，自己効力感，共感の影響－	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日大口腔科学	６．最初と最後の頁 161-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大沢聖子，多田充裕，内田貴之，青木伸一郎，岡本康裕，遠藤弘康，梶本真澄，桃原　直，岩橋　諒，吉野亜州香，伊藤孝訓	４．巻 47(1)
２．論文標題 患者付き添い実習における歯科学生と患者との「関係開始」に影響を及ぼす要因について	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日大口腔科学	６．最初と最後の頁 45－54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Kensuke Matsune, Yasuhiro Okamoto, Yukiko Wada, Akina Okamoto, Akemi Kadowaki, Hiromi Nakazawa, Fusami Shiina, Naomi Satou, Yoshie Masubuchi, Takanari Mizuno, Tetsuro Kono, Seiko Osawa, Hiroyuki Okada, Takanori Ito, Hiroya Gotouda	４．巻 19(1)
２．論文標題 Investigation Concerning Food and Nutrition Education for Health Promotion among Students of Dental Hygiene School	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Int J Oral-Med Sci	６．最初と最後の頁 50-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5466/ijoms.19.50	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Hiroya Gotouda, Yasuhiro Okamoto, Akina Okamoto, Akemi Kadowaki, Hiromi Nakazawa, Mika Takasu, Fusami Shiina, Naomi Satou, Yoshie Masubuchi, Akie Kojima, Azusa Toyooka, Yoko Koyama, Seiko Osawa, Kensuke Matsune, Hiroyuki Okada, Takanori Ito	４．巻 19(2)
２．論文標題 Transition and Distribution of Dental Hygienists and Nurses in Japan	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Int J Oral-Med Sci	６．最初と最後の頁 71-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5466/ijoms.19.71	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hiroya Gotouda, Yasuhiro Okamoto, Akina Okamoto, Akemi Kadowaki, Hiromi Nakazawa, Mika Takasu, Fusami Shiina, Naomi Satou, Yoshie Masubuchi, Akie Kojima, Seiko Osawa, Kensuke Matsune, Hiroyuki Okada, Takanori Ito	4．巻 19(3)
2．論文標題 Geographic Distribution of Dentists and Physicians in Comparison with Dental Hygienists and Nurses in Japan	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Int J Oral-Med Sci	6．最初と最後の頁 122-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5466/ijoms.19.122	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大沢聖子，多田充裕，内田貴之，青木伸一郎，岡本康裕，遠藤弘康，梶本真澄，伊藤早希，桃原　直，岩橋　諒，吉野亜州香	4．巻 45(2)
2．論文標題 患者付き添い実習におけるSignifcant Event Analysis（SEA)を用いた振り返りの検討	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日大口腔科学	6．最初と最後の頁 79-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hiroya Gotouda, Kazutaka Kasai, Yasuhiro Okamoto, Seiko Osawa, Mitsuhiro Ohta, ChiekoTaguchi, Michiharu Shimosaka, Shinichiro Aoki, Takanori Ito	4．巻 17（2）
2．論文標題 Multisource Feedback of Work Place-Based Assessment in Dental Postgraduate Clinical Training	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Oral Health and Dental Manegement	6．最初と最後の頁 94-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Hiroya Gotouda, Kazutaka Kasai, Yasuhiro Okamoto, Seiko Osawa, Hiroyasu Endo, Shinichiro Aoki, Mitsuhiro Ohta, Michiharu Shimosaka, Takanori Ito	4．巻 17（2）
2．論文標題 Evaluation and Correlation between Multisource Feedback and Objective Structured Clinical Examination for Trainee Dentists in Clinical Performance Assessment	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Oral Health and Dental Manegement	6．最初と最後の頁 106-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大沢聖子，多田充裕，内田貴之，青木伸一郎，岡本康裕，梶本真澄，大山　篤，伊藤孝訓	４．巻 34（2）
２．論文標題 患者付き添い実習における学生自身による同意取得の教育効果	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本歯科医学教育学会雑誌	６．最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 多田充裕，大沢聖子，岩橋　諒，西林（吉野）亜州香，桃原　直，梶本真澄，青木伸一郎，岡本康裕，遠藤弘康，内田貴之
２．発表標題 目標達成支援メソッド「オープンウィンドウ64」を用いた医療プロフェッショナリズム教育の試み
３．学会等名 第15回日本総合歯科学会学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 和田由紀子，久山佳代，多田充裕，石橋肇，岡元明菜，門脇明美，鷹巣美香，中澤広美，岩橋 諒，梶本真澄，桃原 直，大沢聖子，青木伸一郎，岡本康裕，遠藤弘康，内田貴之
２．発表標題 医療プロフェッショナリズム教育における目標達成支援メソッド「オープンウィンドウ64」の有用性に関する検討
３．学会等名 第22回 日本大学口腔科学会学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 梶本真澄，青木伸一郎，大沢聖子，遠藤弘康，岡本康裕，岩橋 諒，桃原 直，多田充裕，内田貴之
２．発表標題 医療面接後の振り返りによる男子学生と女子学生の気づきの違いについて
３．学会等名 第22回 日本大学口腔科学会学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 大沢聖子，多田充裕，内田貴之，青木伸一郎，岡本康裕，遠藤弘康，梶本真澄，桃原　直，岩橋　諒，吉野亜州香，伊藤孝訓
２．発表標題 歯科学生と患者との「関係開始」に影響を及ぼす要因について
３．学会等名 第20回日本大学口腔科学会学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 大沢聖子，多田充裕，内田貴之，青木伸一郎，岡本康裕，梶本真澄，大山　篤，伊藤孝訓
２．発表標題 歯科学生自身による患者付き添い実習の自己評価に影響を及ぼす要因
３．学会等名 第39回日本歯科医学教育学会総会および学術大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 伊藤孝訓，多田充裕，大沢聖子，青木伸一郎，内田貴之，岡本康裕，遠藤弘康，梶本真澄，桃原　直，岩橋　諒，吉野亜州香，大山　篤
２．発表標題 本学歯学における基礎・臨床に継ぐ行動科学系学問の分析
３．学会等名 第19回日本大学口腔科学会学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 大沢聖子，多田充裕，内田貴之，青木伸一郎，岡本康裕，梶本真澄，大山　篤，伊藤孝訓
２．発表標題 歯科学生のコミュニケーションに及ぼす要因－ソーシャルスキルとメタ認知－
３．学会等名 第38回日本歯科医学教育学会および学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 大沢聖子，多田充裕，内田貴之，青木伸一郎，岡本康裕，遠藤弘康，梶本真澄，桃原　直，岩橋　諒，吉野亜州香，伊藤孝訓
２．発表標題 患者付き添い実習におけるSignificant Event Analysis (SEA)を用いた振り返りの検討
３．学会等名 第18回日本大学口腔科学会学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 大沢聖子，多田充裕，内田貴之，青木伸一郎，岡本康裕，遠藤弘康，梶本真澄，桃原　直，岩橋　諒，吉野亜州香，伊藤孝訓
２．発表標題 患者付き添い実習におけるSignificant Event Analysis (SEA)を用いた振り返りの検討
３．学会等名 第18回日本大学口腔科学会学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 大沢聖子，多田充裕，内田貴之，青木伸一郎，岡本康裕，梶本真澄，大山　篤，伊藤孝訓
２．発表標題 患者付き添い実習における同意取得者の違いによる検討
３．学会等名 第36回日本歯科医学教育学会学術大会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	大沢　聖子 (OSAWA Seiko) (00152108)	日本大学・松戸歯学部・助教 (32665)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	後藤田　宏也 (GOTOUDA Hiroya) (20307870)	日本大学・松戸歯学部・准教授 (32665)	
研究分担者	伊藤　孝訓 (ITO Takanori) (50176343)	日本大学・松戸歯学部・客員教授 (32665)	削除：2022年6月30日
研究分担者	青木　伸一郎 (AOKI Shinichiro) (60312047)	日本大学・松戸歯学部・講師 (32665)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関